

評価の概要

1. 終了研究課題

(1) 「火山モニタリング手法の高度化に関する研究」

火山モニタリング手法の基本である地殻変動を主としたその変動源の推定については、しかるべき観測網が構築できればかなり迅速に出来ることを示したことで、それを定常的に運用できるようにした点では高く評価できる。今後、火山監視の分野で、他省庁との連携の中で十分にその効果を発揮できるよう期待したい。

(2) 「東海地方の地殻変動の把握手法の高度化に関する研究」

世界的にも、スロースリップ現象解明の先駆けの1つであり、国家規模の高密度GPS観測網の重要性に対する先見性を印象づけるうえでも、今回の研究成果は素晴らしいといえる。

(3) 「ALOS PRISM データの解析に関する研究」

予定していた衛星データの入手ができないという悪条件の中で、航空機搭載センサのデータを用いる等、工夫して意欲的に取り組んだ研究といえる。研究成果をそのまま衛星データに当てはめることは出来ないだろうが、有益な知見を得ることができた。

(4) 「都市再生のための精密三次元空間データ利用技術の開発」

5mメッシュ地盤高データに関する研究開発については、精度の詳しい検証といった細部の検討は残されているものの、高い達成度にあると判断される。都市における高精度測位については、網羅的な調査がなされていない感もあるが、3年間の成果としては大きな問題はないと考える。

〈全体として〉

- ・ 4件の研究は、各分科会で十分研究成果が上がっているという高い評価が得られたが、実際には必ずしも全て完成しているわけではなく、今後も発展させていくべきものが残っている。
- ・ 研究体制については、一部の研究者に負担が偏ることのないよう、バランスを考えて実施されたい。
- ・ 例えば、GPS連続観測から得られる研究成果は、世界に誇れる成果だと考えられる。これらについて得られた知見や解析技術などは、国内のみならず広く世界に発信することを検討されたい。